４．公開講座の実施及び外部フォーラム等への参加について

（１）「課題研究α」公開講座の実施

前年までと同様に、地域の課題解決に取り組んでおられる外部講師による公開講座を行った。課題研究α以外の生徒にも案内をして参加者を募り、おもに１，２年生が数名参加した。

以下に主な講座の内容を示す。

○「国際協力～高校生の私たちにできること～」

（JICA 青年海外協力隊　福井沙織氏）

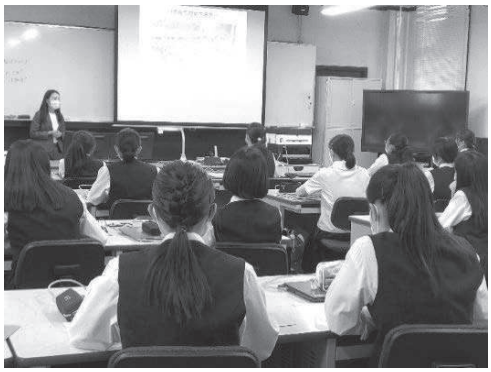
令和 3 年 10 月 14 日（木）、JICA の福井沙織氏を講師にお招きして、課題研究α公開講座を実施した。第 2 学年アドバンストコースの生徒（「課題研究α」選択者 6 名）及び 1～3 年生の希望者 15 名が参加した。

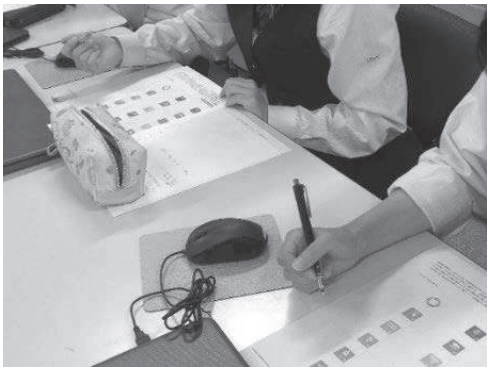
福井沙織氏は JICA 青年海外協力隊としてベナン共和国にて活動し、海外での経験やコミュニティ活動の経験を積まれた。講演のなかで福井氏は、ご自身が海外協力隊の活動を通して感じたことや気づきを具体的なエピソードを交えてお話くださった。またお話だけでなく、ベナン共和国での暮らしの実際の映像や家の写真、現地の布で仕立てたスーツを実際にお見せくださり、生徒はリアルに海外の暮らしや活動を知ることができたようだった。

また、体験談のなかでは SDGs とリンクさせ、これからの世界や社会のあり方、また自分自身のあり方を世界規模で考えるきっかけを与えてくださった。

生徒たちは、福井氏が現職に至るまでの過程や考え方に真剣に耳を傾けており、特に、現地で環境衛生を向上させる取り組みで、自らが何かを作ったり整備したりするのではなく、その地域の人々に声をかけ、現地の人々が自ら取り組みを進めていくようにサポートする、という体制に感銘を受けているようだった。また、ワークショップではグループで意見を交わしながら積極的な発言をして、主体的に学びとろうとしている様子がみられた。

将来的に海外とつながりをもって働くことを視野に入れている生徒も多く、本講演から強い刺激を得られたという声も多かった。





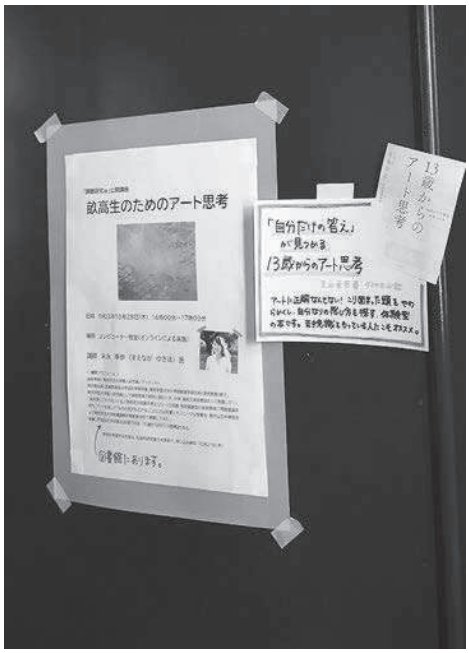
○「畝高生のためのアート思考」

（『「自分だけの答え」が見つかる 13 歳からのアート思考』著者　末永幸歩氏）

令和３年１０月２８日（木）、『「自分だけの答え」が見つかる 13 歳からのアート思考』の著者である末永幸歩先生よる課題研究α公開講座をオンラインにて実施した。第２学年アドバンストコースの生徒（「課題研究α」選択者７名）及び１～３年生の希望者１７名が参加した。

初めに「アート思考」とはどのようなものか、ピカソの作品を示しながら説明があった。その後、「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それによって「新たな問い」を生み出すという「アート思考」を実際に体験するワークショップも行っていただいた。ワークショップでは、ピカソの５つの作品の中から、気になったものを直感で１つ選び、アウトプット鑑賞（作品について気づいたことを自由に書き出す活動）を体験した。生徒は、一つ一つの作品からイメージを膨らませたり、他の見方はないのか探ったりして個人鑑賞を深めた後、アウトプットしたことをグループや全体で共有した。最後に末永先生から、ピカソの半生や「アートという植物」の話を通して、「自分なりの視点」の大切さをお話していただいた。

生徒のレポートには、「自分なりの視点・自分なりの答えが未来を作っていく」「よくわからないからこそよく見る必要がある」ということが印象に残ったという記述が多く見られた。また、芸術鑑賞の際だけではなく、課題研究に取り組むときにも、このアート思考を活用していきたいという感想が多く寄せられた。今回体験したアート思考から、学校生活や今後の人生に生かしていけるものの見方を得た生徒が多かったようである。



○「畝高×“着るロボット”」

（株式会社 ATOUN （あとうん）代表 藤本　弘道　氏）

令和３年 11 月８日（月）、株式会社 ATOUN 代表取締役社長　藤本弘道氏を本校にお招きして、課題研究α公開講座「畝高×“着るロボット”」を実施した。第２学年アドバンストコースの生徒、及び１～３年生１６名が参加した。本講座では実物のパワードスーツである MODEL Y シリーズを試着する時間をとってくださり、「着るロボット」を体感することもできた。

今回の講座に参加した生徒たちは、藤本氏から「新しい価値を提供する人たれ」と激励を受け、未来の物語を描くことから今自分がやるべきことをについて深く考える機会となった。

以下、生徒の感想を紹介する。

・目の前のゴールからではなく遠くのゴールから想像するというバックキャスト型思考は小さい子どもがよく使う思考法で、最終的な自分のゴールにたどり着きやすいということに気がつきました。

・既存のものだけでなく何かと何かを結びつけて新しい「価値」を生み出すという考え方が自分にはない視点だと感じた。

○「大学院生等による出前授業」令和３年度京都大学高大連携学びコーディネーター事業

（京都大学 人間・環境学研究科　彭　悦　氏、農学研究科　福富　雅夫　氏）

令和３年１１月１８日（木）に地域協働推進事業の一環として、京都大学高大連携学びコーディネーター事業「大学院生等による出前授業」をオンデマンド配信により本校で実施した。授業は、京都大学 人間・環境学研究科の彭悦氏による「動画の視聴を外国語学習に活かすには？」と農学研究科の福富雅夫氏による「それって本当に因果関係ですか？データに騙されないための思考法」の２本立てで行われた。第２学年アドバンストコースの生徒、及び１～３年生１１名が参加した。

○「反田恭平氏　特別講演会」

(株式会社 NEXUS 代表　反田恭平氏)

令和３年１２月２８日（火）株式会社 NEXUS の代表であり、またピアニストである反田恭平氏を本校にお迎えし、講演会を実施した。第１部では３年生対象に、また第２部では１，２年生対象にご講演いただいた。クラシック音楽の真髄を探究しながらも、自身のオーケストラの社長として、また教育者として国内外問わず挑戦する姿勢に、全校生徒は圧倒されると同時に大きな感銘を受けた。

以下、生徒の感想を紹介する

・「自身をもって生きてほしい。全力で楽しんでほしい。」という言葉にすごく勇気づけられました。

・人との繋がりが大切という話を聞いて、自分はできるだけ人と繋がるのを避けたいなって思ってきたので反田さんのお話を聞いて価値観が変わりました。

・何十年後のことを考えて逆算して行動されているのはとてもすごいことだと感じました。夢や目標について考え直す良い機会になりました。

○「奈良県コンベンションセンター誘致の背景」

（奈良県観光局 MICE 推進室 MICE 誘致係　小池恭平氏）

令和４年１月２０日（木）、奈良県観光局 MICE 推進室 MICE 誘致係の小池恭平氏を講師にお迎えして課題研究α公開講座を実施した。講座には課題研究α選択生徒 5 名が参加した。小池氏は、令和２年４月に開業した「奈良県コンベンションセンター」の設立に向け業務を担当されてきた方で、「奈良県コンベンションセンター誘致の背景」と題して、お話しくださった。MICE という言葉の意味について初めて知る生徒も多く、小池氏から提示された数多くの画像を見ながら、建物の材質やデザインに「奈良の独自性」が反映されていることや、MICE 誘致によって地域経済にどのような影響が及んでいるのかなど、生徒にとって未開拓な分野についての話に新たな問いを見つける貴重な機会となった。

実施時期が新たなコロナ禍という情勢の中ではあったが、奈良県観光局のご協力により、最終的に当日対面での実施が実現することができたことに改めて感謝の気持ちを表したい。

以下、生徒の感想を紹介する。

・奈良の資源は歴史的なものが「現存」していることだということにはっとなり、印象に残った。内装には壁に和紙が張られていたり、杉の木がふんだんに使われていて、木の香りまでするとのことでぜひ実際に行って体感してみたいなと思った。その中でも柿渋や奈良さらしなど、奈良のものなのに自分は知らなかったものもあり興味をもった。

・コロナウイルスの影響によりコンベンションセンターを最大限に利用できる機会がないのかもしれないが、奈良県の抱える問題の解決や奈良の魅力を発信する大きな転機ではないかと感じた。

・コンベンションセンターのことも MICE のことも全く知らなかったので、今回はとても勉強になりました。奈良の個性については皆で考えても、鹿、大仏くらいしか思いつかず、私たちは奈良についてよく知らないんだと感じていました。今回お話を聞いて、校倉造などの天平建築や奈良の木材を使った格天井が現代に合ったデザインに落とし込まれていてすごいなあと思いました。

・多様な施設のうち、2 階会議室についてのお話で、当初

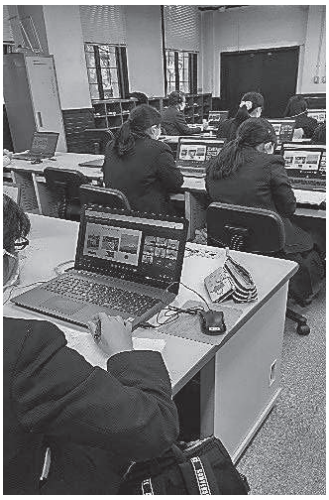
想定していなかった用途で使用されることも結構あると聞き、県と民間の創造力の相乗効果といったようなものが生まれているのだなと思い、面白いと思いました。

○「在大阪・神戸米国総領事館の領事によるオンライン出前講座」

令和４年１月２８日（金）午後４時より、アメリカ総領事館の副領事お二人から、１，２年生の希望者２２名に対して領事館の活動や外交官の仕事についてお話を頂いた。講師は、副領事の Mr. Nathan Slattengren （ネイサン・スラッテングレン氏)と同じく副領事の Ms. Stephanie Lawton （ステファニー・ロートン氏） が務めてくださった。お二人からは、今までの赴任先国や職務内容について、また外交官のその他の職務についてお話を伺った。参加生徒からは、外交官試験の難易度や赴任先国や職務内容は自分の希望が通るのかなどの質問に加え、現状の世界の問題点や、日米間の関係についてなど、講師の考えに対する質問も出てきて、生徒の積極的な参加に驚かされた時間でもあった。英語での講義に少しハードルが高いかと懸念もあったが杞憂に終わり、本校におけるこれまでの課題研究に対する様々な取り組みが、生徒の積極的な姿勢につながっているのだと感じられた。この企画は海外交流アドバイザーによるものであり、コロナ禍において、生徒に「リアル」な英語を使う機会を創出してくださり、参加生徒からも次回を期待する声も多く聞かれた。

以下、生徒の感想を紹介する。

・I was really happy to hear about you and your job. I was able to understand the diplomat's job. Thank you for answering my question!! I wanted to know how to become a diplomat in the U.S., so your explaining was really interesting for me.
I will never forget this experiment!! Thank you very much!!

・すごく楽しかったです！中々お話しすることのできない米国大使館の方のお仕事や大変なこと、やりがいなどを知れて大使館の仕事に興味が湧きました。私は大使館のお仕事はビザの発行が主だと思っていましたが、刑務所にいるアメリカ人の訪問や市民サービスなども行っていると聞き、とても幅広い分野の仕事があるんだなと驚きました。

・分かりやすく聞き取りやすい英語で話してくださったので、外交官のお仕事についてよく知れたと思います。みんながいい質問をして下さったのもあってより深く掘り下げた内容も聞けたと思います。参加出来て良かったです。